

第4回 三谷地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成31年1月20日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：三谷公民館 大集会室

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1 : 30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的 ・進め方とスケジュール ・前回ワークショップでの議事概要	1 : 35
オープンハウス（パネル展示型説明会）結果概要	1 : 55
地区利用型施設再配置プラン案について ・再配置プラン案の追加 ・再配置プラン案の評価・比較	2 : 00
（休 憩）	2 : 20
グループ討議 ・評価の内容についての確認と修正提案	2 : 30
（休 憩）	4 : 00
発表	4 : 10
事務連絡	4 : 25
閉会	4 : 30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 1
- ・ 進め方とスケジュール 2
- ・ 第3回ワークショップの結果概要（案） 3
- ・ 第3回ワークショップふりかえりシートご意見 10
- ・ ご質問等への回答 12
- ・ 三谷地区 地区利用型施設再配置プラン案 15
- ・ 再配置プラン案の評価検証 18
- ・ 本日の検討内容 21
- ・ （別冊）項目ごとの評価の解説
- ・ （別冊）三谷地区オープンハウス（パネル展示型説明会）結果概要

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた三谷地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

ステップ1 ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。

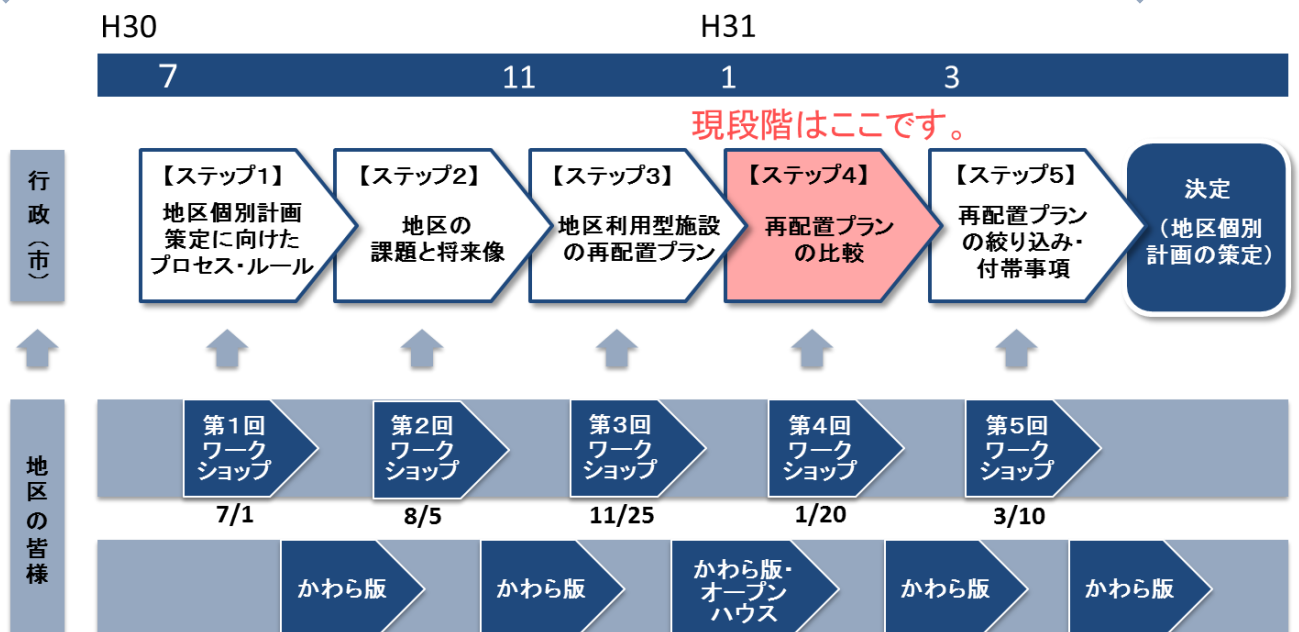
ステップ2 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。

ステップ3 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。

ステップ4 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。

ステップ5 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



第3回ワークショップの結果概要（案）

1 評価の視点

- 評価の視点について、追加、修正すべき点はない。

2 再配置プラン案に対する意見

1) 検討の進め方

- 学校区変更の有無や小学校統合の必要性についての議論をした上でないと、再編案の検討に入れないのではないかと。
- 三谷地区の人口が今後増えることはないと考え、学校区を変更して児童が戻ったとしても長期的には抱えている問題を解決できないだろう。小学校の統合も含めて議論せざるをえない時期に来ていると思う。
- 小学校の統合案は、これまでのワークショップでの議論を反映して出てきた案とは思えないので、これらの提案をベースに議論をするのに違和感がある。小学校の統合が今回のワークショップの議論の中心になるとは思っていなかった。
- 先行して検討された塩津や西浦地区で再編を実施した結果を見て、それを参考に話したい。
- 案の検討をスムーズに進めるために複合化の事例を示し、メリット、デメリットを整理してほしい。

2) 全案共通

- まちの将来像を長期的な視点から考え、その実現に向けて短期、中期的に何をするかを考える必要があると思う。
- 複合化すると建物が複雑になって使いづらく、建設コストもかかるので、

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

今ある場所で規模の縮小や長寿命化をする方がコストを抑えられ、市民の負担が少なくて済むと思う。

- 市の予測通りに人口が減るとは限らないので、人口が増えた場合にも柔軟に対応できる様に、例えば、児童が増えたら一度学校に複合化した公民館部分を学校として使用するなど、転用しやすい建物にしておくといよい。
- 三谷公民館の立地は災害時に危険なので、優先度を高めてできるだけ早く移転すべきだと思う。
- 三谷公民館が移転されると、地区内の避難所が減ってしまうのが心配だ。移転後も建物は残して避難所としての機能を維持してほしい。
- 三谷公民館は、耐震強化して今のまま使い続ける方がコストの無駄にならず、よいと思う。三谷祭の拠点として活用し、展示館機能を付加できれば活性化にもつながる。
- 保育園の送迎は車でしている人がほとんどなので、自宅から徒歩圏にある必要はなく、むしろ駐車場が充実している方が利便性は高いと思う。運営の効率が高まることも考えると、2つの保育園を統合するのはよい。
- 児童クラブが小学校の中にできるのは安心、安全なのでよい。
- 災害時の危険性が高いので、三谷西保育園はできるだけ早く移転すべきだと思う。
- 競争心を生み学力レベルを上げることや部活動の選択肢を増やすことを考えると、学校の児童、生徒数は多い方がよいと思う。子どもは1学年に複数クラスある環境で育てたい。
- 全校生の顔がわかるなど、児童、生徒数が少ないなりの良さがある。学校が統合されると地域コミュニティが壊れてしまう心配もある。
- 施設へのアクセスには車が多いので、いずれの案でも施設までの道路の整備や十分な駐車場の確保が必要である。
- 都市公園法が変わって公園の中に保育園を作った事例があると聞いた。公園を利用して公共施設を整備することはできないか。

3) A案

- 三谷小学校の敷地では、統合した小学校と児童館を建てるのには狭すぎないか。周辺道路も安全とは言いがたいので、多機能化することで車が集中して危険になることも心配だ。
- 三谷公民館がみや児童館に移転すると現在の場所から離れてしまうので、三谷祭の拠点としての機能が果たしづらくなり、日常的な使い勝手も悪くなる。児童館より公民館の方が広い駐車場が必要になるが、十分に確保できるのかも気になる。
- 三谷小学校はもともとあった学校であり、比較的地区の中心に位置しているので、歴史的経緯や通学の利便性を考えると、三谷小学校に小学校を統合するのはよいと思う。ただし、三谷東小学校の保護者などに丁寧な説明をして、慎重に進めていく必要がある。
- 現況では三谷東小学校の方が児童数が多いので、数が少ない三谷小学校の方が多い方に来るべきだという話にならないか。保護者が納得しないのではないか。
- 三谷中学校が人口の多いエリアに移転される点がよい。
- 三谷西保育園が三谷東保育園に統合されると、三谷西保育園の利用者のアクセスが不便になることが心配なので、園児と児童の棲み分けを行った上で三谷小学校に集合させた方がよいと思う。
- 安全を確保しやすいので保育園同士を統合するのはよいと思うが、三谷東保育園の敷地では十分な機能が確保できなくなることが心配だ。十分な施設や駐車場面積を確保するには、統合した園を小学校跡地に移転する方がよいと思う。

4) B案

- 地区の東側に位置する三谷東小学校に三谷小学校が統合されると、特に低学年で通学に不便な子どもが増えてしまうのではないか。竹島小学校に通う子ども達が、学校区の変更に伴い戻ってくるようになったとしたら、三谷東小学校まで通学するのは遠すぎる。
- 地区のコミュニケーション活動には小学校の存在が欠かせないので、拠点となる場所には小学校は残してほしい。
- 小学校跡地の広い敷地に保育園などの機能を統合するのはよいと思うが、通学の利便性を考えると三谷小学校が三谷東小学校に統合されるのは考えられない。三谷東小学校を三谷小学校に統合し、三谷東小学校の跡地を使う方がよい。
- みや児童館の建物はまだ新しく、今の立地で十分に利用されているので、移転後の活用方法が特にないのであれば無理に統合する必要はない。

5) C案

- 地区の東側に位置する三谷東小学校に小学校が統合されると、特に低学年で通学に不便な子どもが増えてしまうのではないか。竹島小学校に通う子ども達が学校区変更で戻ってくるようになったとしたら、三谷東小学校まで通学するのは遠すぎる。
- 三谷中学校が人口の多いエリアに移転される点がよい。
- 中学校が三谷小学校の敷地に移るとしたら、敷地面積が狭いのでグラウンドも狭くなってしまうのではと心配だ。移転するよりも、災害時に強い高台で維持する方がメリットがあると思う。また、地域活動への関わりについては、中学生よりも小学生の方が重要であり、関わりやすくもあると思う。
- 保育園を三谷東保育園の敷地で統合すると十分な機能が確保できるか不安だ。施設や駐車場の広さを十分に確保することを考えると、面積の広い

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

小学校の敷地を使って統合する方がよい。

- 三谷公民館は、高齢者の徒歩でのアクセスの利便性があまり変わらないことや三谷祭の際の利用のしやすさを踏まえると、現在の場所と距離の近い三谷小学校に移転するのが望ましい。
- みや児童館の建物はまだ新しく、現況での利用者も多いので、今の立地のまま維持するのはよい。

6) D案

- 小学校の統合は考えられないと思うので、2つの小学校が残るD案は現状との差が少なくてよい。
- 小学校が統合されないと三谷小学校の児童数が減少し、部活動の選択肢が減ってしまうことが心配だ。将来の児童数の減少やコスト縮減を考慮すると小学校の統合は必要だ。
- 2つの小学校と中学校がこの地区の核なので、現状で小学校を統合することに合意を得るのは難しいと思う。この先、児童数がさらに減ればスムーズに進むかもしれないので、当面は両方の小学校を残し、子供の数が減った時点で地区の真ん中に新たな小学校を作れるとよい。その目標に向けたステップとして、この案がよいと思う。
- 三谷東小に保育園を複合化すると、園児と児童が干渉しあうことによる危険性や騒音、保育園の送迎の車と小学生の事故などが心配だ。棲み分けするためには敷地の広さが必要だし、建設コストもかかってしまうのではないか。
- 2つの保育園は統合せず、それぞれの小学校に保育園の機能を設けてほしい。
- みや児童館が三谷小学校敷地に移転すると、駐車場が足りなくなるのではないか。
- 保育園の送迎の車による交通渋滞が考えられるので、道路整備が必要だ。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

7) 追加・修正案

- A案をベースに、三谷西保育園と三谷東保育園、三谷中学校の3施設を三谷東小学校跡地で統合、現状の利用形態を尊重する観点から三谷公民館は三谷小学校に統合し、みや児童館は今の場所で存続するという案がよいのではないかと。三谷中学校の土地は宅地化して売却することも考えられる。
- D案をベースにして、公民館は今のままの場所に残し、三谷西保育園は三谷東保育園の場所で統合することができると、地域への影響が少なく、地域の将来像に向けた最初のステップとしてよいと思う。
- 三谷西保育園をみどり保育園に統合し、みどり保育園には市から補助を出してはどうか。
- 三谷西保育園をみや児童館の場所に移転できると、駐車場を改修して園庭をつくれるのでよい。

- 学校区の変更については、変更される当事者の意向が尊重されることの事なので、意向調査を実施すべきである。実施することにより、児童の減少やそれに伴う小学校の統合などの課題への気づきを喚起することにもつながる。
- 保護者には学校区境界への問題意識はあまりないだろう。現状のままでよいという人が多いのは明らかだと思うので、意向調査はしなくてもよいのではないか。
- 学校区の変更に関する意向調査は、保護者に対してだけでなく子ども達や三谷地区住民に対しても実施してほしい。子どもは親とは違う見方を持っているかもしれないし、地区住民全般の考えも保護者とは異なると思う。
- 現況の市の課題や学校区の変更が必要だと考えられている理由、ワークショップでの検討の内容などを、しっかり説明した上で意向調査を行う必要がある。
- 地区住民としては竹島小に通う三谷地区の子ども達が三谷小に戻ってきてほしいという気持ちがあるが、当事者である保護者の意向は異なることが予想されるので難しい問題だ。それでも、保護者に対して三谷の歴史や住民の想いなどを伝えてコミュニケーションを取り、保護者の気持ちを変えられれば、将来的には学校区の変更が実現できるかもしれない。
- そもそも最初に学校区を変えた際には、保護者の反対を押し切ってやったのだから、今回も保護者の意向に関わらず市の英断で学校区を変更すればよいのではないか。
- 現況で竹島小に通っている子は卒業までそのまま通い、新たに入学する子から段階的に移っていけば、影響が少ない学校区の変更ができると思う。
- 学校区問題で三谷祭に参加しづらいという話があるが、毎日練習することが条件というハードルは確かにあるものの、竹島小にいる三谷地区の子どもも受け入れている。

第3回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- 自分以外の考え方などが分かった。
- いろんな意見がでたけど竹島小の問題は、早く白黒つけてほしい感じですねー。
- 全員の意見が聞けてよかった。
- いろんな意見が聞けて良かった。
- やっぱり時間が足りないので最初の説明はなくてもいいかもしれないです。
- いろんな話が聞けて良かったです。
- 多世代の現在＝リアルな状態が聞けて単に統合する・しないと考えていた事がメリットデメリット聞いて考えが少し変わりました。
- 基本的な事を忘れて進めて行く所だった。統合すればどうなのか、何が良くて悪いかを話しが出来た。統合ありきの話では無い事！！
- 多世代のそれぞれの意見（子育て世代（園児代、小学生代、中高生代）50代、60代、70代）がきけて、よかった。
- 三谷の将来について非常に活発な意見良かったです。
- 建設的な意見が出されてよかったと思います。
- いろいろな意見が聞けてよかった。
- 自分では思いつかないようなことがあってよかった。
- 意見がまとまってよかった。
- 各案のいいとこどりの意見が出来て良かったと思います。
- 三谷の町について、再考できました。
- 統合すべきではない、と考えていたが、統合したメリットを他グループから聞けてよかった。
- 様々な意見がきけたことがよかった。
- 三谷の昔のことを知る方の意見も大切であると思う。
- 再配置プランの問題がはっきりした事。

2 内容について言い足りなかったこと

- どこまで深掘りして議論していくか、難しい
- 長期的視野と、短期的なものと、多角的に考えていきたい。
- 三谷の人全員にアンケートをとりたいなと思いました。強制くらいにしないとやらないと思いました。
- 特にないです。
- 統合が良いのか悪いのか？
- 児童館と公民館の施設の意義？
- ありません
- 新しい意見をもっと発言させてあげるべき！昔は昔、今も大切。
- 議論 time がもう少し頂きたかったです。（もっとイロイロ聴きたかったです）
- もうちょっと市側の意図を説明してほしかった。
- この会の人材を考えるべきでは？現在の保育園に通っている人の意見が必要。
- 小学校の統合はいいが、新三谷小が一番いいと思う。
- 全員が納得出来る意見は難しいのではないかと思いますのでしっかり説明をして納得したうえで進めていくのがいいと思います
- 保育園統合は、送り迎えが車ならやってもよいかもしれないが、統合したら費用削減等メリットがあるのか明確に説明してほしい。
- 若者の地域への愛着？が低いかなとは思いますが。←ここは考えるべきだと思う。（三谷祭の参加という点からしても）
- 小学校統合は反対。だが意識調査をするなら、なぜ統合する必要があるか説明しないと結果は同じになると思う。
- 小学校・保育園の機能統合の事例も提示してほしい。
- 関係者（教育関係等）の意見を聞くべき。
- ワークショップではまとめられた意見は1つの考えに過ぎないのではないか。
- 計画策定に向けては、多方面の声を聞く必要があると思う。

ご質問等への回答

- 案の検討をスムーズに進めるために複合化の事例を示し、メリット・デメリットを整理してほしい。
- 小学校・保育園の機能統合の事例も提示してほしい。（ふりかえりシートより）
- （学校の）統合すればどうなのか、何が良くて悪いかを話しが出来た。（ふりかえりシートより）

【複合化の事例、メリット・デメリット】

複合化についての事例やメリット・デメリットについては、第2回ワークショップでお示した「コミュニティ施設の複合化・集約化事例集」を参考にして下さい。小学校と保育園の機能統合の事例についても掲載しています。

※ 資料は各テーブルにもご用意しています。

【学校規模によるメリット・デメリット】

文部科学省が作成した一般的な学校規模によるメリット・デメリットがまとめられた資料を掲載しますので参考にしてください。（p.13に掲載）

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

学校規模によるメリット・デメリット(例)

※ 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
【学習面】	○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○ 1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。	○ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
	○ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○ 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○ 児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。	○ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
		○ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○ 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	
【生活面】	○ 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○ 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○ 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。	○ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○ 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。	○ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
	○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	○ 学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	○ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
【学校運営面・財政面】	○ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○ 学校が一体となって活動しやすい。	○ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○ 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。	○ 教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ○ 校務分掌を組織的にしやすい。 ○ 出張、研修等に参加しやすい。	○ 教職員相互の連絡調整が図りづらい。
	○ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○ 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。	○ 子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。	○ 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
【その他】	○ 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○ PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。	○ PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	○ 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

文部科学省ホームページから転載

- 都市公園法が変わって公園の中に保育園を作った事例があると聞いた。公園を利用して公共施設を整備することはできないか。

【保育施設の公園内への設置について】

平成 29 年の都市公園法の改正により、都市公園の占有を認めることのできる施設に「保育所その他の社会福祉施設」が追加され、都市公園の中に保育園等の施設を設置することが可能になりました。

蒲都市の都市公園においては、中央公園の敷地内にちゅうぶ児童館が設置されている事例はありますが、都市公園に他の機能を持つ施設を設置するには、本来の都市公園の機能に支障をきたすことなく運用できることが制度上必要とされています。

また、国土交通省の法改正における運用説明資料では、「具体の施設について、都市公園の占有を許可することが適当か否かは、当該都市公園の状況に応じて、公園全体の面積や一般公衆の自由な利用への影響を考慮しながら公園管理者が適切・慎重に判断すべきもの」とされています。

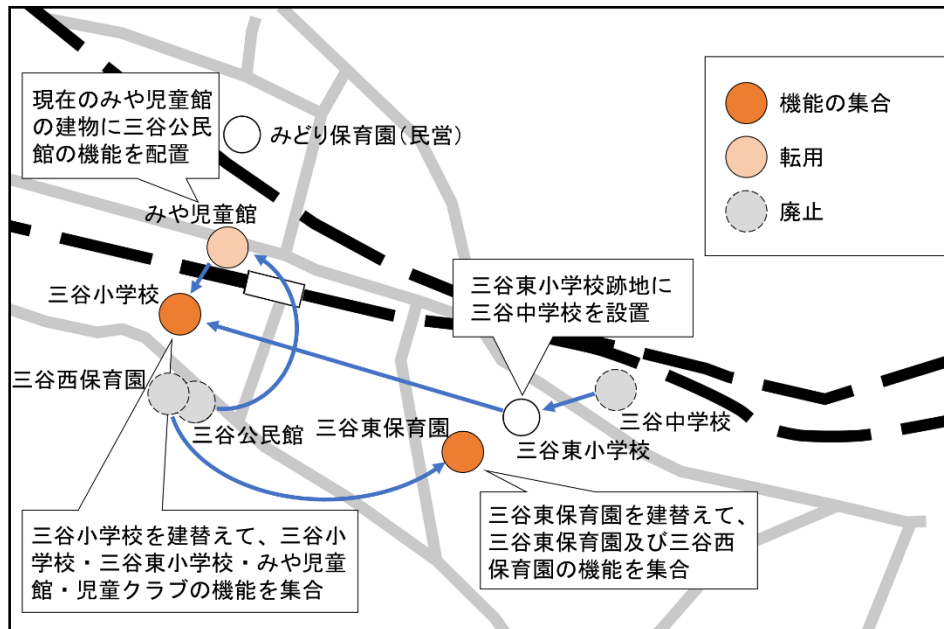
保育施設の公園内への設置については、これらの制度や指針を踏まえて、総合的に判断していく必要があります。

A

子どもに関わる機能を集めて 子どもが育ちやすい環境を整えるプラン

【重点を置いた解決策】②③④

- 三谷小学校の敷地に、2つの小学校、みや児童館、児童クラブの機能を集め子育ての拠点をつくります。
- 三谷東保育園の敷地に2つの保育園を統合した保育園を設置します。
- みや児童館（1階のデイサービス部分を含む）の建物を改装し、公民館の機能を配置します。
- 三谷東小学校の跡地に、三谷中学校を移転します。



特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 安全にアクセスできる小学生の放課後の居場所ができる。
- みや児童館の建物をデイサービス部分を含めて有効活用できる。
- 三谷中学校が徒歩でアクセスしやすくなる。

【関連する解決策】②③④⑤⑥⑧⑨⑩⑫⑬

課題

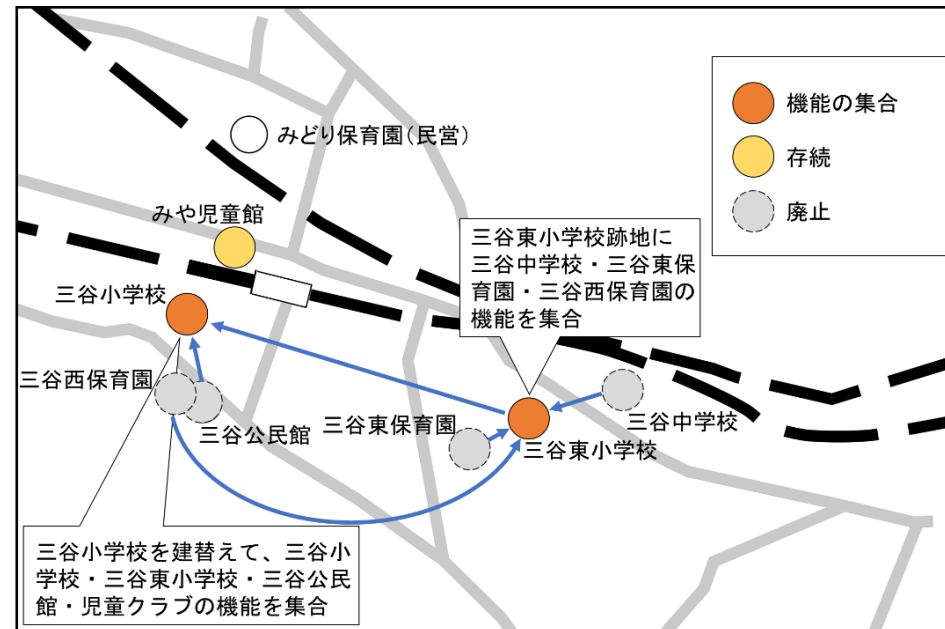
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。

ご意見に基づく追加プラン

A1

公民館と小学校、中学校と保育園が集合するプラン【A案の一部を修正】

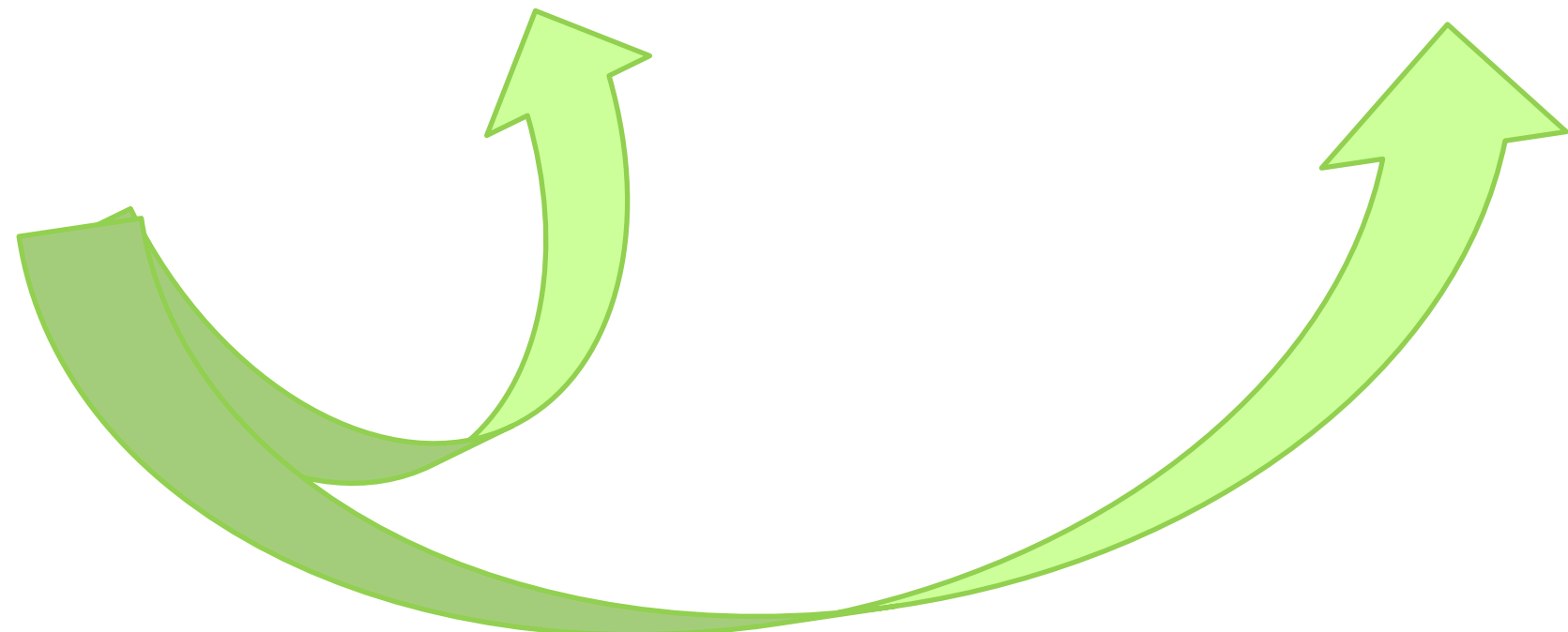
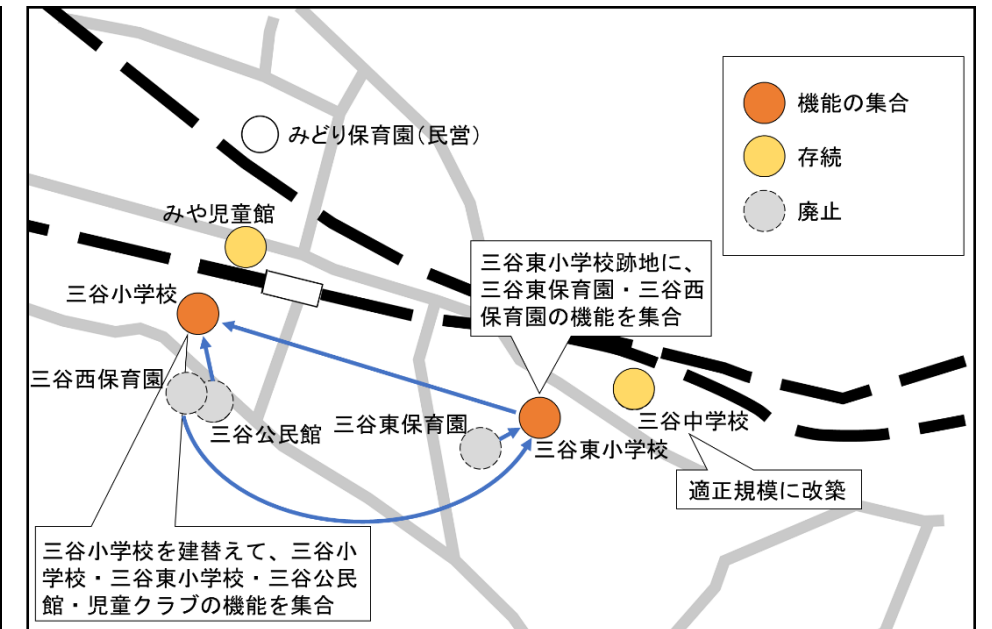
- 三谷小学校の敷地に、2つの小学校、三谷公民館、児童クラブの機能を集め地域活動の拠点をつくります。
- 三谷東小学校の敷地に三谷中学校と2つの保育園の機能を集めます。
- みや児童館は現地で維持していきます。



A2

公民館と小学校が集合するプラン【A案の一部を修正】

- 三谷小学校の敷地に、2つの小学校、三谷公民館、児童クラブの機能を集め地域活動の拠点をつくります。
- 三谷東小学校の跡地に、2つの保育園を統合した保育園を設置します。
- 三谷中学校及びみや児童館は現地で維持していきます。

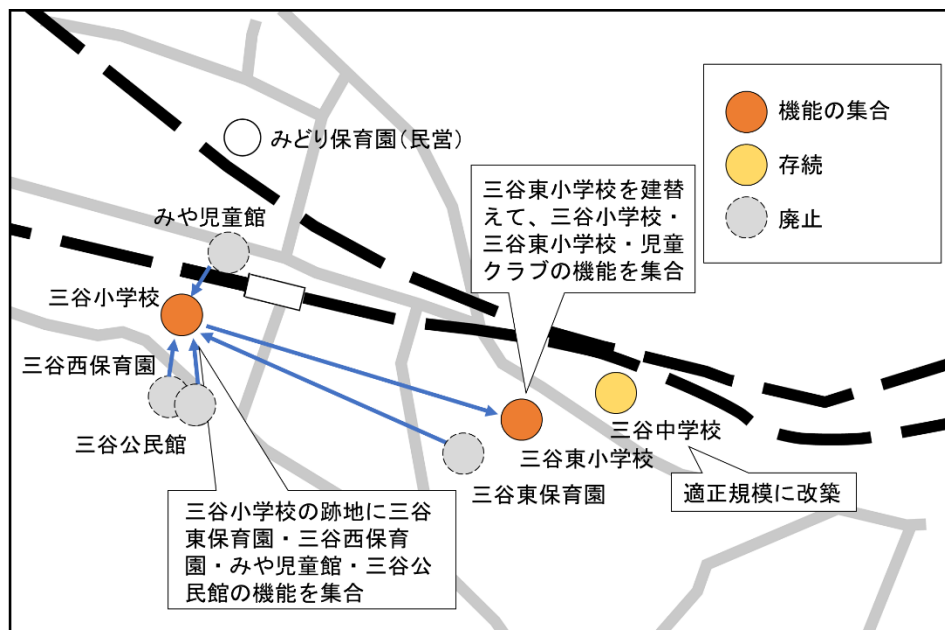


B

使いやすく充実した 地域活動と保育の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】①②⑪

- 三谷東小学校の敷地に、2つの小学校を統合して設置し、児童クラブの機能を配置します。
- 三谷小学校の跡地に、2つの保育園、みや児童館、三谷公民館の機能を集め、広い敷地で使いやすい地域活動と保育の拠点をつくります。



特 徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 三谷小学校の跡地を活用でき、駐車場やグラウンドなどに余裕がある使いやすい地域活動や保育の拠点ができる。
- 公民館を利用する高齢者と保育園や児童館を利用する子ども達の交流機会が増える。

【関連する解決策】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬

課 題

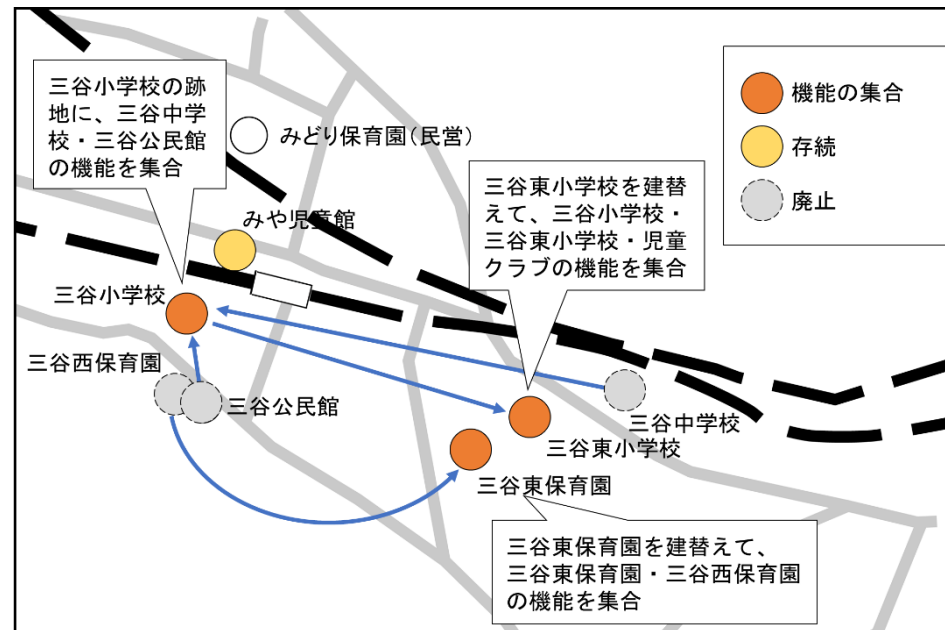
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。
- 比較的新しい児童館の建物の活用方法の検討が必要。

C

将来を担う中学生が 地域活動に関わりやすくするプラン

【重点を置いた解決策】②⑥⑦

- 三谷東小学校の敷地に、2つの小学校を統合して設置し、児童クラブの機能を配置します。
- 三谷小学校の跡地に三谷中学校と三谷公民館の機能を集め中学生が地域の行事等に関わりやすい環境をつくります。
- 三谷東保育園の敷地に、2つの保育園を統合した保育園を設置します。



特 徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 中学生にとって三谷祭をはじめとする地域の活動がより身近になる。
- 周辺人口の多い位置に中学校が移ることから中学生の通学しやすさが高まる。

【関連する解決策】①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑫⑬

課 題

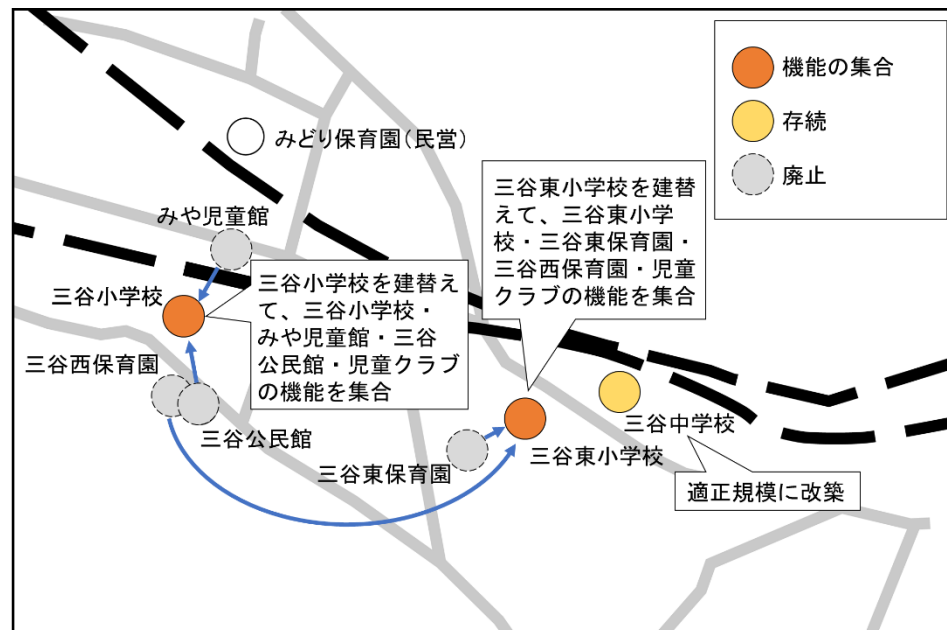
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。

D

通学のアクセスを維持するプラン

【重点を置いた解決策】⑥⑩

- 三谷小学校の敷地に、三谷小学校、みや児童館、三谷公民館、児童クラブの機能を集め複合化します。
- 三谷東小学校の敷地に、三谷東小学校、2つの保育園、児童クラブの機能を集め複合化します。
- 小学校の位置を変えないことで、通学のアクセスを維持します。



特徴

- 小学校への通学のアクセスを維持できる。
- 三谷小学校において、安全にアクセスできる小学生の放課後の居場所ができる。
- 三谷小学校の児童が地域活動に関わりやすくなるとともに公民館を利用する高齢者と交流しやすくなる。
- 三谷東小学校と保育園の交流が行いやすくなる。

【関連する解決策】①③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

課題

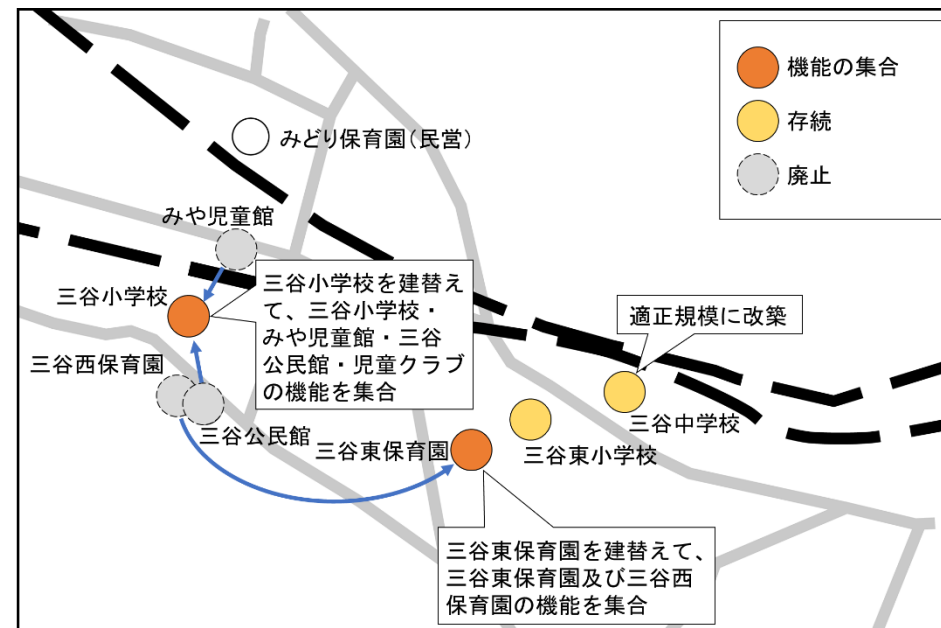
- 児童数の少ない小学校を維持していく必要があり、費用負担が大きい。また将来的には、1学級の学年が増えることや部活動の選択肢が減ることが想定される。
- 比較的新しい児童館の建物の活用方法の検討が必要。

ご意見に基づく追加プラン

D1

三谷東保育園敷地で保育園を集約するプラン【D案の一部を修正】

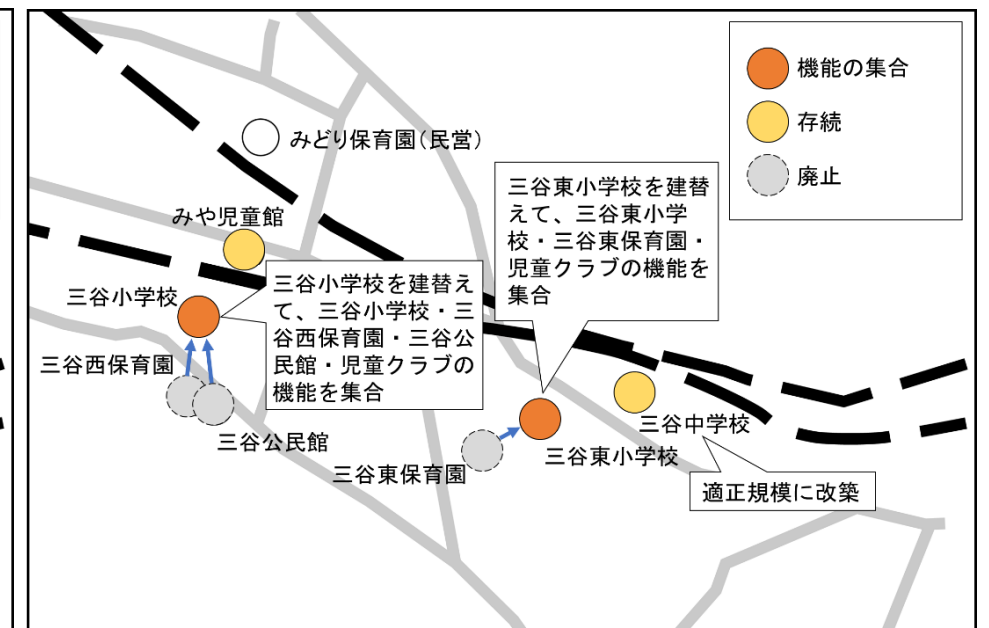
- 三谷東保育園の敷地に2つの保育園を統合した保育園を設置します。
- 三谷小学校において学年1クラスの状態が継続すると見込まれる程度まで子どもの数が減少した時点で、小学校の統合に向けた再検討を行う。



D2

2つの保育園を残すプラン①【D案の一部を修正】

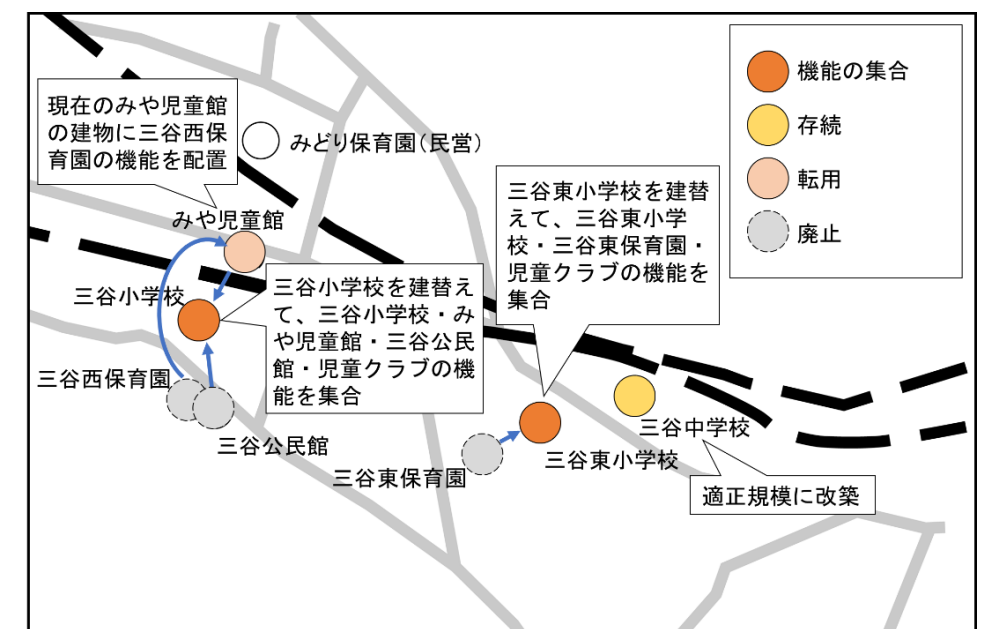
- 2つの保育園を2つの小学校敷地にそれぞれ移設します。
※ このプランでは、三谷小学校のグラウンドが現状より狭くなることが想定されます。
- みや児童館は現地で維持していきます。



D3

2つの保育園を残すプラン②【D案の一部を修正】

- 三谷東保育園を三谷東小学校敷地に移設します。
- みや児童館（1階のデイサービス部分を含む）の建物を改装し、三谷西保育園の機能を配置します。



再配置プラン案の評価検証

1 再配置プラン案を比較評価するための評価軸

視 点	内 容	評価項目
① 地区のまとまり	- 地区住民同士が関わり合い、三谷としてのまとまりを作りやすくなっているか。 - 地区の行事や活動の中心となる拠点が整備されているか。	ア 地区の子ども同士の一体性を作りやすいか。（学校の配置により評価） イ 地区の伝統や象徴が保たれる施設の配置になっているか。（小学校の配置で評価） ウ 地域の伝統行事に活用しやすい施設の配置になっているか。（公民館の配置で評価）
② 地区の活性化	産業活性化などの地域振興が進むか。	エ 産業の活性化や住宅開発が進むか。
③ 学校教育環境の適正化	- 適切な学校規模が維持されているか。 - 学習環境や活動内容が充実しているか。 - 学校の配置は適切か。	オ 適切な学校規模が維持されているか。（30年後の小学校の学校規模を国の基準にあてはめて評価） カ 小学校の学習環境や活動内容は充実しているか。 キ 中学生のグラウンドでの活動のしやすさは保たれるか。 ク 適切な通学距離が保たれているか。
④ 子育てしやすい環境づくり	- 子どもの居場所は確保されているか。 - 子育てしやすい環境が整備されているか。	ケ 小学生にとって放課後に安心して過ごせる場所が確保されているか。（児童クラブの配置で評価） コ 地区内に中高生が勉強する場所は確保されているか。 サ 保育園の徒歩での通園のしやすさは保たれているか。（保育園の周辺年少人口で評価） シ 保育園へ自動車で送迎しやすくなったか。（保育園の駐車場の確保しやすさを評価）
⑤ 多世代・同世代で活動・交流できる場づくり	- 様々な世代の方が交流できる環境は充実しているか。 - 同世代で気軽に利用・交流できる場は確保されているか。	ス 日常的に子どもと地域の大人の交流が行われる環境が充実したか。（公民館と学校・保育園・児童館との関係で評価） セ 子育て世代や中高生など若い世代が同世代で集まれる環境は充実したか。（公民館・児童館の配置と機能について評価）
⑥ 防災・防犯	- 安全の確保された立地となっているか。 - 避難所・避難場所の数や位置は適切か。 - 機能が集合した施設の防犯対策・安全面への配慮がされているか。	ソ 津波・高潮の危険を避けられる施設配置になっているか。 タ 災害時の避難所・避難場所は確保されているか。 チ 利用者の防犯面での安全は確保されているか。
⑦ 利便性の確保	1カ所で多様な活動が行えるようになったか。 - 各所から通いやすい施設配置となっているか。 - 駐車スペースは十分確保されているか。	ツ 1カ所で多様な活動が行なえる施設配置になったか。 テ 公民館へのアクセスしやすさは向上しているか。（公民館の周辺人口と駐車場の確保しやすさを評価） ト 児童館の駐車場が十分に確保されているか。
⑧ 将来負担の縮減	維持更新費用・運営費用は縮減されているか。	一定期間の施設にかかる総コストが低いものを評価する。 - 面積が小さいなど、建替え・改築費・改修費・修繕費が安価な場合は総コストが低くなる。 - 土地の売却や借地の返還が発生する場合は、総コストが低くなる。 - 面積が小さいなど、建物の維持管理費（光熱費・保守点検費等）が安価な場合は総コストが低くなる。

2 評価方法

- 視点①～⑦については、評価項目ごとに ◎：現状より向上、○：現状維持もしくは一長一短がある、△：現状より低下 の3段階で評価します。
- 視点⑧については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額に基づき評価します。（試算の結果及び条件等は別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.16～20のとおり。）

3 項目ごとの評価結果

視点	評価項目	A案	A1案	A2案	B案	C案	D案	D1案	D2案	D3案
① 地区のまとまり	ア 地区の子ども同士の一団性を作りやすいか。（学校の配置により評価）	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○
	イ 地区の伝統や象徴が保たれる施設の配置になっているか。（小学校の配置で評価）	○	○	○	△	△	○	○	○	○
	ウ 地域の伝統行事に活用しやすい施設の配置になっているか。（公民館の配置で評価）	△	○	○	○	○	○	○	○	○
② 地区の活性化	エ 産業の活性化や住宅開発が進むか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③ 学校教育環境の適正化	オ 適切な学校規模が維持されているか。（30年後の小学校の学校規模を国の基準にあてはめて評価）	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△
	カ 小学校の学習環境や活動内容は充実しているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キ 中学生のグラウンドでの活動のしやすさは保たれるか。	○	○	○	○	△	○	○	○	○
	ク 適切な通学距離が保たれているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
④ 子育てしやすい環境づくり	ケ 小学生にとって放課後に安心して過ごせる場所が確保されているか。（児童クラブの配置で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	コ 地区内に中高生が勉強する場所は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	サ 保育園の徒歩での通園のしやすさは保たれているか。（保育園の周辺年少人口で評価）	△	△	△	△	△	△	△	○	○
	シ 保育園へ自動車で送迎しやすくなったか。（保育園の駐車場の確保しやすさを評価）	△	○	◎	◎	△	○	△	△	○
⑤ 多世代・同世代で活動・交流できる場づくり	ス 日常的に子どもと地域の大人の交流が行われる環境が充実したか。（公民館と学校・保育園・児童館との関係で評価）	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	セ 子育て世代や中高生など若い世代が同世代で集まれる環境は充実したか。（公民館・児童館の配置と機能について評価）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑥ 防災・防犯	ソ 津波・高潮の危険を避けられる施設配置になっているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	タ 災害時の避難所・避難場所は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	チ 利用者の防犯面での安全は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑦ 利便性の確保	ツ 1カ所で多様な活動が行なえる施設配置になったか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	テ 公民館へのアクセスしやすさは向上しているか。（公民館の周辺人口と駐車場の確保しやすさを評価）	○	○	○	◎	△	△	△	△	△
	ト 児童館の駐車場が十分に確保されているか。	○	○	○	◎	○	△	△	○	△
⑧ 将来負担の縮減	LCC（ライフサイクルコスト）試算における50年間の縮減額 （単位：百万円）	6,909	6,959	6,315	6,593	6,737	3,675	3,473	1,406	1,491
◎の個数		5	6	7	9	6	4	4	4	4
○の個数		12	13	12	9	9	12	11	13	13
△の個数		3	1	1	2	5	4	5	3	3

評価結果点数表（参考）

- 視点①～⑦については、各評価項目の ◎=2点、○=1点、△=0点として足し合わせ、75点に得点割合を乗じた値を下表のⅠにまとめました。
- 視点⑧については、50年間のLCC（ライフサイクルコスト）の縮減額の最も高い案を25点とし、その他の案は縮減額に比例して減点した値を下表のⅡにまとめました。
- ⅠとⅡを足し合わせ100点満点で合計を計算しました。

Ⅰ 地区の魅力や安全に関する項目（視点①～⑦）についての評価 （75点満点）

A 案	A 1 案	A2 案	B 案	C 案	D案	D1 案	D2 案	D3 案
41.25	46.88	48.75	50.63	39.38	37.50	35.63	39.38	39.38

Ⅱ 将来負担に関する項目（視点⑧）についての評価 （25点満点）

A 案	A 1 案	A2 案	B 案	C 案	D案	D1 案	D2 案	D3 案
24.82	25.00	22.69	23.69	24.20	13.20	12.48	5.05	5.36

縮減額 (6,909 百万円) (6,959 百万円) (6,315 百万円) (6,593 百万円) (6,737 百万円) (3,675 百万円) (3,473 百万円) (1,406 百万円) (1,491 百万円)

合計（Ⅰ＋Ⅱ） （100点満点）

A 案	A 1 案	A2 案	B 案	C 案	D案	D1 案	D2 案	D3 案
66.07	71.88	71.44	74.32	63.58	50.70	48.11	44.43	44.74

本日の検討内容

前回のご意見を反映させ作成した追加案を加えた合計9つの再配置プラン案をご意見にもとづく「評価の視点」を踏まえて評価しました。

評価の内容について修正点や配慮すべき点などがありますか。

次回ワークショップのご案内

「第5回三谷地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

1 日時

平成31年 3月10日（日）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

2 会場

三谷公民館 3階 大会議室

3 お願い

- ・ 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので当日ご持参下さい。
- ・ 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-mail：zaimu@city.gamagori.lg.jp